

# 平成26年度 現職教育研究概要

相馬市立中村第二小学校

## 1 本年度の研究について

### (1) 求める子どもの姿

「県研究主題」を通して、以下のような子どもの姿を目指していきたい。

つくり出す喜びを味わうことができる児童  
感性を働かせることができる児童  
表現や鑑賞に取り組むことで思いを深めることができる児童

### (2) 研究の仮説

このような児童に迫るための仮説を次のように設定した。

出会った題材に対して、思いをふくらませ表現するために、鑑賞の場や試しの場を工夫した授業展開や見取りをしていけば、自分の思いを豊かに表現することができるだろう。

### (3) 研究内容

#### ◎ 1年次

(1) つくり出す喜びを味わうことができる題材の構想と表現方法や素材の工夫

- ① 子どもの姿や学習指導要領の共通事項などをもとに、はぐくみたい資質や能力を設定する。
- ② 題材（表現テーマや素材、表現方法）について地域の特色や他教科とのかかわり、行事などを生かす工夫をする。

#### ◎ 1年次及び2年次

(2) 思いをふくらませ表現できる授業展開の工夫

- ① 子ども一人ひとりがアイデアを思いついたり作品に対する思いを広げたりするための参考資料の工夫や表現方法の提案を工夫する。
- ② 子どもの思いをふくらませ、豊かに表現できるように題材の中で自己選択・自己決定できる場や機会を設定する。
- ③ 見取りを生かした言葉かけや新たな表現方法の提案などの工夫をする。

#### ◎ 2年次及び3年次

(3) 鑑賞活動の工夫と評価の工夫

- ① 学習始めや途中の鑑賞場面の位置づけやその内容を工夫する。

## 2 本年度の研究における共通理解事項

### H25年度の反省

新しい材料や用具のために、授業時間内や別時間に試しの時間を設定したおかげで、子ども自身がどんどん気付いてくるのが分かった。この時間があるのとないのとでは、イメージの広がりや造形活動のスムーズさなどに大きな差があった。形から想像する題材では特に顕著で、教師の例示を見せるよりも豊かな発想ができていた。

本年度は大幅な人事異動により、約半数の職員の入替わりがあった。そのため、年度初めに図画工作科の基本的な内容について確認する場を設け、前年度の反省を受け修正を行った、本年度の研究の方向性について確認をした。

## 「造形遊びの学習」とは

### 「材料を基に造形遊びをする」

結果的に作品なることもある。

- 初めから作品を作ることを目的としていない。  
思いつくままに試みる自由さなどの遊びの特性を持つ。

### 「表したいことを絵や立体、工作に表す」

およそのテーマや目的を基に作品を作ろうとする。

- (イメージを基に) 作品を作る。



造形遊びから、表したいことを見つけて作品作りに展開した実践の例

#### 造形遊びの特徴

- ・材料に進んで働きかけ、表し方を見つれたり試したりするなどの過程を楽しむ活動
- ・材料を並べたり積んだりするなどの、手や体全体を働かせる活動
- ・材料の形や色を操作したり、場所の特長を生かしたりするなどの構成的な活動

#### 造形遊びと学年の関係

低学年：身の回りの材料を並べる、つなぐ、積むなど、体全体を働かせて楽しく作ること。

中学年：身近な材料や用具を組み合わせたり、場所などから発想したりしながら作ること。

高学年：場所の広さや形などの特徴も視野に入れ、周囲の様子を考えて構成したり、経験や技能などを総合的に生かしたり目的を共有したりして作ることができるようになること

#### 指導にあたっての工夫

材料からの発想を豊かにするために：材料の種類や量を豊富に用意する

材料からの発想を深めるために：材料の種類や量をすくなくする

創造的な技能を高めるために：材料や用具の経験を総合的に生かすような題材を構成する

※児童の資質や能力は、活動そのものに現れることが多い

→活動の様子などを写真などで記録し、評価（自己評価、相互評価を含む）に役立てる

#### 学年における指導の工夫

低学年 ・広い床や校庭などの児童が十分に材料と関わるができる安全な場所の準備  
・児童が進んで造形活動を始めるような提案  
・一人一人の児童が発想を広げられることができる時間の確保

中学年 ※低学年と高学年を合わせたような工夫

高学年 ・自分なりに視点を決めて材料を集めたり場所を探したりさせる  
・見る人がどのように感じるかなどに思いを巡らせながら構想させる

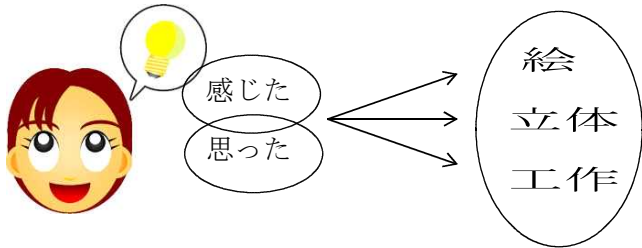
## 「絵や立体、工作に表す」の学習とは

「A表現」の（2）について

思いのままに表す楽しさから、自己を見つめ、他者や社会を意識した表現へと広がりながら、発想や、構想、創造的な技能などの能力を育成する学習。

- ・「感じたこと」「想像したこと」から活動が生じる

感じたり思ったりする主体 → 個々の子ども達 (他律的ではない)



これらの形式を借りて表現する  
(形式が先に存在しているのではない)



- ・基本観点 → 「表したい、作りたい内容」から、活動を展開する  
自己決定・自己選択させることにつながるか

- ・用具の使い方の指導について

材料や用具は、必要に応じて当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げて指導できるようになっている。また、その後の学年においても、繰り返し取り上げるようにすれば、より扱いに慣れることができる。

単元配当表にも記入してあるので、事前に確認の上、必要に応じて「試しの時間」において確認・再指導を行うように。

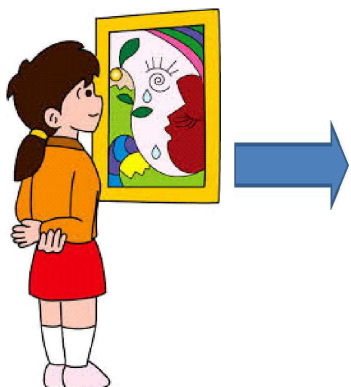
⑨ 材料や用具の扱いに習熟することが目的ではない。

## 「鑑賞」について

学習指導要領では、鑑賞活動を「生きる力」に直結するものと位置づけしている。

×：単に作品を見る

○：コミュニケーション能力、言語力の育成、文化理解と伝承、学校と社会の連携などの力を発揮される活動



### 鑑賞の構造

「鑑賞」：表現と鑑賞はそれぞれに独立して働くものではなく、お互いに働きかけたり、働きかけられたりしながら、一体的に補い合って高まっていく活動。

### 鑑賞の能力について

低学年：身の回りの作品などから、面白やさ楽しさを感じ取ること。

中学年：身近にある作品などから、良さや面白さを感じ取ること。

高学年：親しみのある作品などから、良さや美しさを感じ取ること。

※「作品など」とは、美術作品そのものだけでなく、子どもの見方や感じ方を深める対象全てのことを指す



「活動前の鑑賞」「活動中の鑑賞」「活動終了後の鑑賞」など、いろいろな場面での鑑賞活動（自己鑑賞や相互鑑賞を含む）の活用が考えられる。

## 「言語活動」について

児童の発達段階を考慮して、児童の言語活動を充実することに配慮する



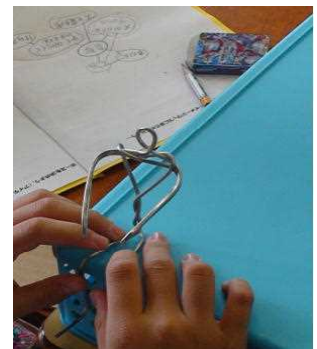
図工（高学年）では

感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などを捉えること。

### H26.5.9 の現職教育の内容から

## (1) 「試しの時間」の定義について

- 新しい材料・用具に触れる・慣れる時間  
→ 感覚からイメージを持つ・広げる
- 技術の習熟を図る時間  
→ イメージを作品化させるために必要な技術を練習する  
※ 習熟が目的ではないことは確認する
- アイディアが適切か判断するために確かめてみる時間  
→ 色や技法がイメージに合っているか確認する



## (2)「学習カード」の活用の仕方について

- アイディア・思考の可視化  
→ 漠然としたアイディアを自分だけでなく、周囲にも伝わるようにさせる。
- 思考の流れ・変化の確認  
→ 初めは○○だった。しかし、～～というように考え、□□にするようにした。
- 本時の見通しの確認  
→ 今日は○○を、～～というようにする。
- 本時のふりかえりと次時の活動予定  
→ 今日は予定通り○○を～～というようにした。  
次は◇◇を☆☆のようにしたい。



### 3 研究の実際

#### 第2学年

造形遊びから想いをふくらませ、作品作りに発展させる実践を行った。  
造形遊び → 作品作り



#### 第4学年

学習カードを活用し、本時の見通し及びふり返り・次時の活動予定を立てさせるといった、一連の「学びの連続」を意識化させる実践を行った。  
見通し → ふり返り → 次時の見通し (学習カードの活用による学びの連続)

#### 第3学年

「試しの時間」において、新しい材料や道具に触れ、イメージをふくらませることで、次時の活動の見通しを持たせる実践を行った。(学習カードの活用)  
試しの時間 → イメージ → 見通し

#### 第3学年

前時の「試しの時間」でふくらませたイメージを確認しながら本時の見通しを持たせ、「ふり返りの時間」で自分の想いを再確認させる実践を行った。(学習カードの活用)  
イメージ → 見通し → ふり返り・思いの再確認



#### 第6学年

イメージマップや具体物の操作など、資料提示の工夫と学習カードの活用をすることで、アイディアや思考を可視化させる実践を行った。  
資料提示(イメージマップ・具体物操作)・学習カードの活用  
→ アイディア・思考の可視化

#### 第1学年

提示資料の工夫とグループ内での見合い・話し合いを工夫することで、想いをふくらませながら作品制作に取り組みさせる実践を行った。  
提示資料の工夫 → 見合い・話し合い → 作品制作



#### 第5学年

「試しの時間」で材料の特徴に触れさせ、また、参考資料の鑑賞や友達の見つけた技法を見合うことで学びを共有することができるようにした。そしてそれらの発見を学習カードに記録させることで、新たな課題に気づかせる実践を行った。  
参考資料 → 見合い・話し合い  
→ 学びの共有 → 学習カードの活用  
→ 新たな課題の発見



#### 学習カードについての反省

今年度の実践において、学習カードの活用は大変有効であったが、より有効活用できるように手直しができないか、との反省が出た。しかし、学習カードの形式に関しては、統一した形式を使うのは難しい。本年度、それぞれの学習で工夫された学習カードをもとに、単元や指導者の意図に応じて、適切と思われる形式を手直しを加えながら活用していただくようにしてはどうか。また、ポートフォリオにして、既習事項の確認ができる(使える技法の確認と応用への見通しを持つ)ような工夫をしていってはどうかとの結論に至った。

## 4 研究のまとめ (※…○：成果 ●：課題)

### 思いをふくらませ表現できる授業展開の工夫について

- ① 子ども一人一人がアイデアを思いついたり作品に対する思いを広げたりするための参考資料の工夫や表現方法の提案を工夫する。
  - 参考資料としては、写真や参考資料、実物など、視覚的資料の提示がイメージを持たせるのには有効であった。
  - 提示した参考資料に対し、どのようなイメージが持てるか、また、どのような工夫をすることができそうかなど、全体で考えたり話し合ったりする時間を持つことで、よりはっきりとした見通しを持ちながら活動に取り組むことができた。
  - 「試しの時間」で考えた工夫を導入時に紹介し、それぞれの工夫の内容を共有することで、自分の作品作りの見通しにつなげることができた。
  - 提示資料の真似になりがちな子どももいる。そのため、提示資料は未完成の状態で、考えたり工夫したりする余地を残しておく必要がある。
  - 学習始めの鑑賞活動において、制作途中の作品の全体の様子や部分的に注目させたい工夫など、見通しが持てる資料提示を工夫することが必要である。
  - 何を捉えさせるのか、具体的に想像できるような、資料の準備のあり方について研究を進めていく必要がある。
  
- ② 子どもの思いをふくらませ、豊かに表現できるように題材の中で自己選択・自己決定できる場や機会を設定する。
  - 材料や素材を変えることで作品の様子や雰囲気が変わることを体験させることができた。
  - 体験の積み重ねをし、活動の見通しをしっかりと持たせることで、今の自分ができる技法や技能の中から、どれがイメージを具現化するのに適しているかを選択・決定できるようになってきた。
  - アイディアスケッチの段階から、自分の作品についてのイメージを十分に持たせていき、またイメージスケッチだけでなく言葉での説明なども付け加えさせていくことで、思考の可視化ができてきた。
  - イメージを具現化させる際に、体験や技能の不足分を補わせるための、「試しの時間」の設定の仕方と活用方法についての研究を進めていく必要がある。
  
- ③ 見取りを生かした言葉がけや新たな表現方法の提案などの工夫をする。
  - 写真記録やデジカメの画像などで、前時の活動から本時の活動に生かせる内容を子どもたちに提案することで、学びの連続につなげることができた。
  - それぞれの思いや工夫のよさを見つけ、近くの子どもたちに伝わるような賞賛をすることで、学びが広がるようにすることができた。
  - その子どもが何を表現したいのか、その個の表現の意図を見取り、本時のめあての達成に必要な表現方法を、参考資料や学習コーナー、友だちの行っている工夫などから提案することの工夫のあり方。そして、個の行為の価値付けや賞賛のあり方などの工夫について考えていく必要がある。

### 鑑賞活動の工夫と評価の工夫について

- ① 学習始めや途中の鑑賞場面の位置づけやその内容を工夫する。
  - 子ども相互の交流も思いをふくらませるのに役立っていた。
  - 学習カードの中に、鑑賞・見取り、その他の内容を盛り入れることができるので、学習カードの工夫は効果的であった。
  - 鑑賞活動の視点として、友達や自分の作品のよさを見つけることは、その子らしさや自分らしさを見つけることにつながる。そのために、語彙力を増やし言語活動を充実させることで、自分の思いを伝え合い、自己肯定感を持たせる学級経営や、人間関係の育成が大切になってくる。
  - 活動の時間の確保が大事なので、活動の前後に全体を止めることはせずに短時間でできるようにすることが大切である。